

「アジアアン・ヘイスト」

とはなにか

合衆国におけるアジア系住民を狙った憎悪犯罪の報道が、耳目を集めるようになって久しい。この事態は、同国で70万人以上の命を奪ってきた新型コロナウイルス感染症の責任を、「中国」に帰そうとした為政者によって助長されたと思なされている。これは、パンデミックのいわゆる猛威が、「アジア人」への憎悪の形で現れていること、ひいてはパンデミックというものが、公衆衛生上の事件にとどまらず、政治的・文化的事件でもあるということを示している。だが、同国において、アジア系への偏見や差別はいまに始まったことではない。アメリカ社会は、長く放置してきた問題への直面を、むしろ改めて強いられているのだ。本シンポジウムでは、歴史学、社会学、政治学の領域で、同問題を先端的に考究してきた研究者を招聘し、現状を出来させた歴史と構造の両方を見据えることを目的とする。

「いま」の依拠する歴史と構造

講師

和泉 真澄

(同志社大学グローバル地域文化学部 教授)

南川 文里

(立命館大学国際関係学部 教授)

三牧 聖子

(高崎経済大学経済学部 准教授)

討論者 明戸 隆浩 (立教大学社会学部助教)

司会 新田 啓子 (立教大学文学部教授・アメリカ研究所所長)

2022年1月22日(土) 14:00 ~ 17:00

オンライン開催 (Zoom ウェビナー)

右記のQRコードかURLからお申し込みください。 <http://s.rikkyo.ac.jp/551afe2>

